

彩小ふれあいだより

平成22年7月5日

3・4年生平和学習～原爆展を成功させる広島の手

広島市立彩が丘小学校
校長 竹川 智子



6月22日(火)3・4年生は、「原爆展を成功させる広島の手」の皆さんから被爆体験のお話を聞きました。毎年、中学年はこの会の方からお話を聞いています。

3年1組入っていただいた山本正子さんは、被爆当時19才。本川小の寮母さんとして3年生以上の小学生を連れ、三好に疎開。疎開先での子どもたちや生活の様子、被爆して亡くなった両親の遺体を自分の手で河原で焼いたお話。

3年2組に入っていただいた真木淳治さんは当時14才。学徒動員に出ていて舟入高校近くの軍需工場に出ていて被爆。顔半分、腕など火傷をおって、己斐から横川、牛田の下宿まで帰った話、腕にウジ虫がわいた話、親が迎えに来てくれた話。

4年1組に入っていただいた内田汎子(ひろこ)さん。爆心地から1.5km離れた自宅で被爆。妹さんを比治山橋で見つけ、水がほしいと言うのでタオルに水をひたして戻ってみると、妹はいなかった。二日後に小学校の講堂で亡くなっているのを発見した。

4年2組に入っていただいた石津ユキエさん。当時2歳。直接の被爆体験はないが、嫁いだ先の義理のお兄さんが原爆でなくなった。義母は高熱がでて、「休みたい」と言うのを無理矢理送り出したことを悔み、亡くなるまで鶴を折り続けた。行方不明の息子がいつか帰ってくるのではと、息子が使っていたカバンと教科書を大事にしまっていた。

それぞれの方が被爆のつらい体験とともに、被爆者としての思いを一生懸命語ってくださいました。子どもたちは真剣に食い入るように聞いていました。

7月6日(火)8:35～9:30体育館にて、全校児童参加の平和集会を開きます。

学年ごとに戦争や平和について学習したことを発表し合い、みなで平和の大切さを真剣に考えます。保護者・地域の皆さんもぜひお時間があれば、参観にお出でください。

